

国際シンポジウム

台湾海峡の平和と安定 米中対立・ ウクライナ戦争・日本の安保政策転換を見据えて



2023年8月31日（木）
日本記者クラブ ホール
（東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル10階）
主催：一般社団法人 **アジア調査会**
協力：台北駐日経済文化代表処

開催にあたって

昨年8月のペロシ米下院議長（当時）台湾訪問後、米中関係は「政冷経温」の状態が続いています。今年6月には、ブリンケン米務長官が訪中し、習近平国家主席と会談しましたが、対立の構図が直ちに変わることはなさそうです。またロシアのウクライナ侵攻は、中国による台湾への武力行使に対する懸念を国際社会に呼び起こしました。日本も昨年改定した国家安全保障戦略など安保3文書に基づき、関連予算を2027年度に国内総生産（GDP）比2%へ倍増させる計画です。岸田文雄首相は「今日のウクライナは明日の東アジアかもしれない」と語りました。台湾海峡の平和と安定を堅持し、台湾有事を回避する知恵が求められています。

本シンポジウムは、コロナ禍で見合わせてきた対面形式を復活し、近年の兩岸（中台）関係を主要テーマに、日本と台湾の専門家が実際に顔を合わせて議論します。台湾の専門家が問題提起し、中国と台湾で勤務経験のある日本のジャーナリスト、岸田内閣の防衛力強化有識者会議メンバーを務めた国際政治学者らが、台湾をめぐる米中対立の行方や日本の対応などを展望します。

プログラム

国際シンポジウム

「台湾海峡の平和と安定 米中対立・ウクライナ戦争・日本の安保政策転換を見据えて」

パネリスト

姚 人多 氏	台湾・清華大学副教授
中西 寛 氏	京都大学大学院教授
塩沢 英一 氏	共同通信論説委員兼編集委員

モデレーター

坂東 賢治 氏	毎日新聞特別編集委員
---------	------------

司会

岸 俊光	一般社団法人アジア調査会事務局長
------	------------------

■第1部

兩岸関係をどう分析するか——台湾からの現地報告、中国の近年の路線変化

13:00 開会 開会のあいさつ

13:05～14:10

第一部 モデレーター、パネリストによる基調報告

14:10～14:30

休憩

■第2部

台湾有事をどう回避するか——日本の防衛政策の転換、ウクライナ戦争の影響

14:30～15:35

パネリストによる基調報告と討論

15:35～15:55

質疑応答

16:00 閉会

パネリストとモデレーター



パネリスト



姚 人多氏

姚 人多 (Yao Jen-to) 氏

台湾・清華大学副教授

1969年生まれ。台湾大学社会学科卒業、英エセックス大学で社会学修士、同博士の学位を取得。現在、台湾・清華大学副教授。社会学者としての学術活動に加え、学生時代に発表したいくつかの小説が台湾文学賞、聯合報文学賞を受賞するなど、小説家・コラムニストとしても著名。蔡英文政権で総統府副秘書長及び海峡交流基金会副董事長兼秘書長を務めた。



中西 寛氏

中西 寛 (なかにし・ひろし) 氏

京都大学大学院教授

1962年生まれ。1988～90年シカゴ大学歴史学部博士課程在籍。京都大学大学院博士後期課程退学。法学修士（政治学）。京都大学公共政策大学院院長を経て、京都大学大学院法学研究科教授。日本国際政治学会理事長（2014～16年）。著書に『国際政治とは何か——地球社会における人間と秩序』（中公新書、読売・吉野作造賞受賞）、共編著に『歴史の桎梏を越えて——20世紀日中関係への新視点』（千倉書房、大平正芳財団特別賞受賞）など。



塩沢 英一氏

塩沢 英一 (しおざわ・えいいち) 氏

共同通信論説委員兼編集委員

1963年生まれ。慶應義塾大学文学部卒。1987年共同通信入社。ジャカルタ特派員、台北支局長、中国総局長などを経て、論説委員兼編集委員。中国人民解放軍の動向に関する継続的な取材や深い分析によりボーン・上田賞を受賞した。著書に『インドネシア烈々』（社会評論社）、『中国人民解放軍の実力』（筑摩書房）、共著に『中国に生きる』（共同通信社）、『東アジア交錯するナショナリズム』（社会評論社）、『香港軍票と戦後補償』（明石書店）など。

モデレーター



坂東 賢治氏

坂東 賢治 (ばんどう・けんじ) 氏

毎日新聞特別編集委員

1957年生まれ。東京外国語大学中国語科卒業後、1981年毎日新聞社に入社。秋田支局、政治部を経て91年に外信部。香港支局長、中国総局長（北京）、ニューヨーク支局長、北米総局長を務め、中国問題や米中関係を取材した。外信部長、編集編成局次長、論説室専門編集委員を経て、特別編集委員。現在、毎日新聞朝刊コラム「余録」、「外事大事」などを執筆。

